

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表①(平成29年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 職員一体となって、地域の期待に応えられる特色ある学校づくりを進める。	1 本校の教育課題を全職員で共有し、一丸となって重点目標の達成に努める。	① 「SSH事業」を始めとする本校の特色を理解している保護者・生徒が80%以上である。 ② 全ての職員が重点目標を踏まえた自己目標を設定し、目標達成を意識した実践に取り組んでいる。 ③ 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が、90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 「SSH事業」など、本校の特色ある教育活動を、保護者や地域に積極的に発信する。 学校課題に対応した職員研修を時宜を捉えて実施し、職員の共通認識のもと、資質向上や意識改革を図る。 各職員が「重点目標」や「学校評価一覧表」を踏まえた「自己申告書」を作成し、目標達成を意識した実践を推進する。 		A	A	昨年より7ポイント上がり、89%の生徒が認識している。保護者、地域へも教育活動をさらに発信する。 長期的・短期的学校課題について、絶えず職員で共有する。88%の生徒が好きだと感じている。	A	A	93%の保護者、86%の生徒が認識している。生徒の認識の割合は第1回アンケートより3ポイント減少したため、興味関心を高める取組を工夫したい。 84%の生徒が好きだと感じている。昨年より7ポイント減少したので、原因を精査し対策を検討したい。
	2 保護者・同窓会・地域と連携し、開かれた学校づくりを進める。	④ PTA総会の参加率が60%以上、学年PTA(各学年2回実施)の参加率が90%以上である。 ⑤ Webページやメール連絡網から、学校からの必要な情報が十分に伝わっていると感じている保護者が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会や学年PTAの内容を充実させ、保護者の出席率向上を図る。 学校評議員会での意見や保護者アンケートの要望を学校教育に適切に取り入れる。 情報発信ツール(学校Webページ・GSNメール連絡網)の積極的な利用を呼びかけ、効果的な活用を図る。 		B	B	第1回学年保護者会の出席率は78%であった。内容の充実に努める。 GSNメール連絡網は十分活用されている。Webページの更新をこれまで以上に行う。	B	B	第2回学年保護者会の出席率は81%であった。さらなる内容の充実に努める。 引き続き、Webページ、メール連絡網の有効利用に努める。
	3 職員の服務規律の確保、特に情報管理を徹底する。	⑥ 職員の服務規律違反が「0」である。 ⑦ 情報管理に関する事故が「0」である。	<ul style="list-style-type: none"> 「規律確保行動計画」を定期的に点検するとともに、機会をとらえて注意喚起し、全職員で服務規律の確保に努める。 情報モラルについて機会ある毎に職員に情報を提供し、セキュリティ意識の向上を図る。 		B	／	チェックリストを活用し違反の根絶を徹底する。 おおむね良好であるが、さらに意識の向上を図る。	B	／	引き続き意識の向上を図る。
II 質が高く、内容が濃い「力のつく授業」を展開する。	4 適切な授業時間を確保する。	⑧ 臨時時間割等、授業時間確保に学校として努力していると感じている職員が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 曜日間の授業の入替えや授業カット時のローテーションを1年を通して計画的かつ円滑に実施し、授業時間の適切な確保に努める。 SSH部と連携し、SSH事業とその他の授業や行事等が無理なくつながり運営されるための校内体制を整備する。 		A	／	夏季休業前までの授業日数が例年より少なく、行事の多い学期の授業数がやや少なかったが、二学期以降は行事との調整を一層図り、授業確保に努めた。	A	／	おおむね良好であったが、複数学年でSSH活動が実施され、時間割の作成と管理にかかる労力が増大している。
	5 教員個々及び集団としての教科指導力の向上を図り、授業改善を推進する。	⑨ 授業改善のための研究授業や研修会を年2回以上実施する。 ⑩ 授業に満足している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 教科の枠を超えた教員同士の授業参観と指導方法等の情報交換を推進する。 進路部と連携し、65分授業、少人数授業・習熟度別授業のあり方について、各教科・学年・分掌で見直しを図る。 		A	／	従来とは異なった授業に関する研修を実施して、生徒にとって魅力的な、力のつく授業を増やしていきたい。	A	／	年間をとらえて授業研修を行った。生徒アンケート結果をふまえ、生徒が授業に求めるものについて考察を深めていきたい。
	6 成績処理・書類作成等の効率化を図る。	⑪ 定期考査・学期末・学年末の成績処理が効率よくできていると感じている職員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 分掌・学年・教科間の連絡を密にして、教務関係書類の作成、管理、運用の適正化と効率化を図る。 情報部と連携して、本校の実情に即した成績処理システムの可能な限りの改良を図る。 		A	／	1クラス減に向けて、校内の体制を整えていきたい。	A	／	教務部としていくつか業務改善を行うことができた。 引き続き運用の適正化と効率化に努めたい。
III 3F精神に根ざす、活力ある高生を育成し、活気ある学校づくりを進める。	7 生活規律を確立させ、規範意識の醸成を図る。	⑫ 挨拶を励行できていると感じている職員・生徒が90%以上である。 ⑬ 遅刻者が1日平均6人以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで挨拶をする習慣を身につけさせる。 時間に余裕をもった行動がとれるよう指導する。 他者を思いやる言動を身につけさせ、IT機器の適切な利用について指導を徹底する。 		B	A	昨年度より職員の挨拶に対する数値が減少している。 元気よく励行させるために校門指導や職員からの声掛けを徹底したい。	B	A	挨拶に関して、生徒は昨年度より1%、職員は4%上昇と少しづつだが改善が見られた。全職員巻き込みでの積極的な挨拶運動をすることにより、生徒の挨拶に対する習慣化を図るよう投げかけていきたい。
	8 交通安全指導の徹底を図る。	⑭ 雨天時に雨合羽を着用していると認識している生徒が100%である。 ⑮ 常に交通ルールを遵守していると認識している生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時やマナーアップ運動での指導を通し、交通安全意識を高めるとともに、交通法規の遵守を徹底させる。 雨天時の雨合羽の着用を徹底させる。 自転車の駐輪場所、施錠の徹底を図る。 		A	A	おおむね良好である。引き続き、校門にて交通マナーの遵守を呼びかけたい。	A	A	昨年より引き続き数字は高いが、マナー等の苦情については見受けられた。引き続き道交法をしっかり指導し、交通安全指導の徹底を図りたい。
	9 問題を抱えている生徒を早期に把握し、適切に指導する。	⑯ 特別な理由なく休んだ生徒は、必ず担任・学年が連絡・状況確認をする。 ⑰ 生徒自らが自身の課題を解決するために必要な支援を積極的に行う。 ⑱ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議・生徒部会議において生徒の情報交換を密にする。 SCへの紹介や家庭訪問・面接、他機関への連絡を通し、学年が必要とする支援を積極的に行う。 SCを有効活用できるよう環境を整備し維持することにより、SCとの協働を充実させる。 		A	／	おおむね良好である。夏休み後に欠席が増加したの で、さらに相談しやすい雰囲気を作り、全職員の連携を図っていきたい。	A	／	多様な生徒が出てきている中、おおむね良好である。ただ、高崎高校への愛着は下がり傾向である。 魅力ある学校作りを、悩みのある生徒に対しては早期対応を図り、その解消に努め不登校生徒が出ないよう組織的対応を図りたい。
	10 生徒会活動を活性化し、部活動や各種行事の充実を図る。	⑲ 生徒会行事が充実していると感じている生徒が80%以上である。 ⑳ 部活動が充実していると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に「部活動視察」を行い、部・部顧問との連携を強化し、施設等の効果的な活用を推進していく。 生徒徒会総務の会議を頻繁にもつことで、生徒との意志疎通を密に図りながら、適切な指導助言をしていく。 		B	A	昨年度より部活動の数値が大きく下がった。 もう一度部活動に対しての取り組みを考えさせ、積極的に取り組ませたい。	B	B	昨年度より生徒会行事について12%、部活動は3%生徒の評価が下がった。安全管理と生徒の主体的な参画の仕方に多少の食い違いが出てきている。生徒が充実感を味わえるよう意見交換を密にして創意工夫を図りたい。

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表①(平成29年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価		第2回 点検・評価				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策	
IV 3年間を見通したキャリア教育を推進し、生徒の進路目標を実現する。	11 生徒一人ひとりの進路目標実現を強力に支援し、進学実績の向上を図る。	㉑ 国公立大学の合格者が180名以上である。 ㉒ 生徒対象の各種進路講演会、志望別の進路イベントや、学校が提供する進路関係資料に80%以上の生徒が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に志をもたせ、進路意識を高める進路行事及び各種面談を学年と連携して計画立案、実施する。 機能的な志望校検討会、職員研修会を設定する。 有用な進路情報を広く迅速に入手し、効果的に提供するとともに、的確な情報分析を行い、学年と教科の指導に活かす。 進路指導室をより生徒、職員の利用価値の高い場所とする。 	／	／	今までやってきた教科指導、進路指導を見直し、改善に努める。 授業、模試、面談等で生徒の現状を把握し、迅速に対応する。	／	／	生徒の志向上に努めると共に、本校教育の検証と改善を行う。 現状把握と目標設定の明確化をし、タイムリーな指導に努める。	
	12 生徒の潜在能力を引き出し、学力を最大限に向上させる。	㉓ 授業の満足度が80%以上である。 ㉔ 補習・学習合宿に参加した生徒の80%以上が満足している。 ㉕ 平日の家庭学習時間の平均が3年は3時間以上、1・2年は2時間以上である。		<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した学力向上対策を学年と連携して実施し、より高い質の授業、目的を明確にした補習、個別指導に努める。 1・2年次に学習習慣と基礎力を身につけさせるとともに、各種面談を通して学習の方向性を示す。 学年間、教科間、教科内で進路に関する情報交換と連携を進め、担任団が連携して同一歩調で生徒を指導する。 	A	A	授業、補習、添削、進路行事すべてをPDCAサイクルにのせ、マンネリを打破する。 課題の意味を理解させ、自ら学びに向かわせる。	A	A	授業、課題、補習、添削、進路行事、面談等それぞれの意味を生徒と共有し、相互理解の基、日々向上を目指す。
	13 SSH関係諸行事の効果的な運営を援助し、生徒のキャリア形成力を養う。	㉖ SSH課題研究論文に真剣に取り組んだと自己評価する生徒が80%以上である。 ㉗ 1学年について、SSH活動が有意義であったと考える生徒が80%以上である。 ㉘ 2学年SSHクラスにおいて、SSH活動が有意義であったと考える生徒が80%以上である。			<ul style="list-style-type: none"> SSH課題研究論文作成の経験を通して、生徒の探究力、課題設定能力、課題解決能力を養う。 SSH活動の中で高い水準のサイエンスに触れさせるとともに、グローバルな体験を積ませて、未来のリーダーとなり得る人材を育成する。 	A	A	課題研究の中で検証・評価の段階で躓く生徒が増えるので、具体的な指導が行われるよう支援を強化する。 生徒が身につける能力を意識し、生徒がその成長を感じられるようルーブリックによる指導を強化する。	A	A
V 生徒の読書習慣を育成し、図書館利用の活性化を図る。	14 SSH活動や学年・教科と連携し、生徒の読書習慣の育成を図る。	㉙ 年間貸出数が2,500冊以上である。 ㉚ 県感想文コンクールに入賞者が出る。	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション等での読書指導を通し、生徒の読書習慣の確立を図る。 SSH課題研究論文等の作成にあたり、図書館を有効に活用した幅広い題材収集を促す。 読書感想文コンクールへの意欲的な取組を行う。 			B	B	教科や行事などに関連させ、図書をどのように生かせるのかを模索していく。 SSH・受験関連の本を充実させていく。	B	B
	15 図書委員会の活動を充実させ、生徒の図書館利用を促進する。	㉛ 全体の30%以上が、学習室としての利用も含め、月1回以上図書館を利用する。 ㉜ 生徒の年間読書数の平均が2.5冊以上である。 ㉝ 図書委員会が毎週開かれる。		<ul style="list-style-type: none"> 図書委員会の主体的な活動を推進し、図書館講演会や校内読書会への参加促進を図る。 読書実態調査の結果をフィードバックし、蔵書の充実や利便性の改善等、図書館の充実に活かす。 「図書館報」・「推薦文集」・「図書館だより」の内容を充実させ、図書館利用の促進を図る。 		B	B	図書報の掲載写真の入れ替えや、推薦文集の掲示場所の変更など、従来していたことをどう引き継ぎ、どうやって改めていくのか検討しているところである。	A	A
	16 自主的・積極的に心身を鍛え、自らの健康を適切に管理できる資質・能力を養う。	㉞ 「保健だより」を含む健康関連情報の発信を毎月定期的に行う。 ㉟ しっかり健康管理に取り組んでいると自己評価する生徒が80%以上である。			<ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」、及び、その他の健康関連情報を適宜発信し、自主的に健康づくりができるようにする。 生徒の健康状態・定期健康診断の結果を踏まえ、必要に応じた処置や受診指導を行い、自主的に健康づくりに取り組む意識を高める。 	A	A	健康関連情報を適宜発信した。健康診断結果を各家庭に配布し、メール通知も行った。引き続き、生徒の健康意識の向上に努めたい。	B	B
17 衛生的で快適な学習環境を整備し、落ち着いた集団生活を維持できるようにする。	㊱ 校内事故の発生を「0」にする。 ㊲ 安全で衛生的な学習環境が整えられていると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 環境測定や校内巡視を適切な時期に実施し、衛生的で快適な学習環境を維持する。 保健委員会を適切に開催し、改善が必要な状況について、情報や具体策を周知するとともに、健康関連情報の発行に関与させ、健康づくりを適切に管理できる資質・能力を育てる。 	A			A	現時点において校内事故は発生しておらず、継続して安全管理に努める。引き続き環境部と連携し、環境改善を推進する。	A	A	安全で衛生的な学習環境に対する生徒からの評価結果を踏まえ、生徒会と連携するなどして、学校全体で環境改善に取り組ませる。
18 環境意識を高め、校内美化を推進する。	㊳ ゴみの分別と資源の回収を常に意識し、毎日の清掃活動・リサイクル活動に主体的に取り組めたと自己評価している生徒が90%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> 清美委員会と生徒会が連携し、ゴミの分別をさらに充実させるキャンペーン活動を推進し、生徒の環境美化意識を高める。 日々の清掃活動を充実させる。 	A		A	生徒会役員による紙のリサイクルや、整美委員による分別指導を行っているが、一般生徒の意識は昨年と比較して向上していない。意識の向上に努めたい。	A	A	生徒の取組のアンケート結果は昨年度と同様90%であるが、さらなる向上を目指して、今年度の活動を継続させたい。
19 火災や災害等の緊急時における生徒の安全を確保する。	㊴ 災害に対して危機意識を持ち、防災訓練では迅速に行動できたと自己評価している生徒が90%以上である。			<ul style="list-style-type: none"> 防災の大切さを理解させるとともに、円滑な避難経路の確認を旨に、実りある防災訓練を実施する。 訓練当日だけでなく、日頃から常に防災意識をもつよう働きかける。 	A	A	地震を想定しての第1回避難訓練は概ね良好であった。火災を想定した第2回訓練も真剣に取り組ませたい。	A	A	火災を想定した第2回の避難訓練も概ね良好であり、生徒の防災意識は昨年度より向上した。
20 エコD.O.！を積極的に推進する。	㊵ 節電を実行できたと評価している職員・生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会との連携や印刷物によるPR等でエコD.O.！への意識向上を図り、光熱水費の節減に努める。 			B	B	アンケートの結果、職員は概ね良好であるが、生徒の行動や意識はまだ低い。生徒の意識が向上するよう努めたい。	B	B	生徒の節電に対する行動のアンケート結果は73%で昨年度より下がってしまった。具体的な方策を考え直し実行したい。